



序の口

5月26日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

5月26日のおはなし「序の口」

男1 「ずいぶんゴキゲンな様子ですな」

男2 「おう。気分はいい」

男1 「へへ。いいことでもありましたか。ご相伴にあずかりたいもんで」

男2 「飲むかい？ おう大将、お猪口を持っといで。ありったけ持って来な。ひとつ選んでみんな返しちゃうから」

男1 「あっしなら、最初（はな）っからひとつだけで結構ですから」

男2 「しみったれたこと言うねえ！ ほら」

男1 「へへ。こりゃどうも」

男2 「飲め飲め」

男1 「おととと」

男2 「これで足りなきゃ、ありったけお猪口持ってこさせるから」

男1 「旦那、まだそのご冗談を」

男2 「まだたあ何だ、まだたあ。ずーっと続いてんだよ俺の冗談はよ」

男1 「さいですか」

男2 「さいですかじゃねえよ。カバですかってもんだ」

男1 「カバがどうかしましたか」

男2 「馬鹿野郎！ サイじゃあなくてカバだと……」

男1 「へへ。旦那、ほんとにゴキゲンで」

男2 「ゴキゲンゴキゲンって言うけどそれは何だ？」

男1 「何だ、と申しますと？」

男2 「ゴキゲンじゃなくなったらご期限切れか？」

男1 「……ああ。それが言いたかったんで？」

男2 「悪いか」

男1 「悪か、ござんせん。でもまた旦那、何です？ いいことって。教えてくださいよ」

男2 「いいこと？」

男1 「へい。ゴキゲンの理由。あやかりたいもんで」

男2 「ゴキゲンの理由と来たか」

男1 「へへ。来ました」

男2 「これを見ろ」

男1 「何でしょう。え、あ！ 富くじ。こいつあひよっとするとさっきあの天元寺の境内で出た、あの当たりの。あ！ こりゃてえへんだ。旦那すごいですね。当たりましたか？」

男2 「んなのは序の口だ」

男1 「これが序の口。じゃ、もっとすごいことが」

男2 「あった」

男1 「ありましたか」

男2「薬店（くすりだな）の大旦那、清兵衛さんいるだろ」
男1「は。お会いしたことはござんせんが」
男2「名人だ」
男1「名人と言いますと」
男2「碁の名人だ」
男1「名人ですか」
男2「勝った！」
男1「勝った？」
男2「清兵衛さんに碁で勝った！」
男1「ははあ。勝ちましたか。そうですか。はあ。言っちゃあなんですが、あの旦那、富みくじの方が」
男2「それだけじゃない」
男1「それだけじゃない？」
男2「それも序の口だ」
男1「これもですか。序の口が続きますね」
男2「さくらんぼのヘタを口の中で結んだ」
男1「結びましたか」
男2「これも序の口だ」
男1「そんな気がしました」
男2「棒振りをしてんだが」
男1「なんでしょう、棒振りってのは」
男2「ブザンソンで優勝した」
男1「あたしにもわかるように話していただけやすか」
男2「小澤征爾も優勝している」
男1「小澤って、あ！ あの世界のオザワですか」
男2「世界のオザワだ」
男1「“♪いつだって可笑しいほど誰もが誰か 愛し愛されて生きるのさ”の小沢健二のおじさんです」
男2「おまえも何を言っているのかわからない」
男1「で、その、釜山で優勝しましたか」
男2「釜山ではない。ブザンソンだ。アルバロ・アルビアチーフエルナンデスも優勝している」
男1「何を言ってるか全くわかりやせんが」
男2「これも序の口だ」
男1「序の口ですか。序の口が行列して、弱い相撲部屋みたいなことになってますが」
男2「芥川賞と江戸川乱歩章をダブル受賞した」
男1「たはあ！ そりゃめでてえ。前代未聞ですな」
男2「大島優子がうちで俺の帰りを待ってる」

男1「そいつぁどうもご馳走さまで」

男2「苦節四十年。ついに俺の時代がやってきた」

男1「ちげえねえ」

男2「21世紀は俺様の世紀だ！」

男1「まったくでさ」

そこで男はちょっと考えまして。

男2「でも旦那、もう2099年ですぜ」

とたんに旦那と呼ばれた男は浦島みたいに老け込み始め、髪がばさりばさりと抜け落ちて歯茎からぼろぼろと歯が……

* * *

「うわっ」

俺はじっとりと厭な汗をかいて目を覚ました。マスターが言う。

「大丈夫ですか。ずいぶん寝言を言っていました」

「歯が」

「痛みますか」

「いや。ちゃんとある。あいつは？ あいつはどこへ行った？」

「あいつと言いますと？」

「あの、たいこもちみたいな」と言いかけて、何もかも夢だったことに思い当たる。「ああそうか。夢か」

「いい夢でしたか？ カクテル〈俺様の世紀〉のは」

「途中まではずいぶん景気が良かったんだが」

「ははあ」マスターは手元のビンを見てつぶやく。「最後に入れたタバスコが古かったかな」

(「俺様の世紀」 ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

新作スタート。お題募集中。

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」
をご活用ください。

序の口

<http://p.booklog.jp/book/37413>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37413>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37413>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.